

生田緑地里山倶楽部 2019 活動（全 23 回）記録

生田緑地里山倶楽部通信 1901～1923 号

令和 2 年(2020) 3 月

生田緑地自然環境保全管理会議市民部会事務局

特定非営利活動法人かわさき自然調査団

水田ビオトープ班班長 岩田臣生

npo@konrac.org

目次

1901号	2019年4月6日	2
1902号	2019年4月20日	7
1903号	2019年5月4日	11
1904号	2019年5月18日	15
1905号	2019年6月1日	19
1906号	2019年6月8日	24
1907号	2019年7月6日	30
1908号	2019年7月20日	33
1909号	2019年9月7日	37
1910号	2019年9月21日	42
1911号	2019年10月5日	45
1912号	2019年10月19日	50
1913号	2019年11月2日	53
1914号	2019年11月16日	57
1915号	2019年12月7日	62
1916号	2019年12月21日	65
1917号	2020年1月11日	70
1918号	2020年1月25日	74
1919号	2020年2月1日	77
1920号	2020年2月8日	80
1921号	2020年2月15日	84
1922号	2020年2月29日	87
1923号	2020年3月7日	90

平成2019年度 里山倶楽部A 第1回
生田緑地観察トレッキング

日時 平成31年(2019)4月6日(日) 10:00~15:00

場所 生田緑地整備事務所~ピクニック広場~ピクニック広場下~萌芽更新地区~ハンノキ林~竹林~湿地~梅畑~上の田圃~下の田圃~ヨシ原~戸隠不動尊跡~柵形山北尾根~城山下谷戸~芝生広場~皆伐更新地区~東口北雑木林(解散)

参加者

里山倶楽部Aのメンバー

- 6年目 山下まい、ねのは(小6)
- 4年目 池上幸一、陽子、豪一郎(小3)
- 3年目 杉本貴子、孝、大知(小6)
- 2年目 小野寺まなみ、花柑(小5)
佐藤奈緒、天音(小3)
- 1年目 佐藤奈帆、悠馬(小3)
中村瑞季、さち(幼児)

里山倶楽部Bのメンバー

岩淵裕輝、政野祐一

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 20名

2019年度里山倶楽部Aの第1回ということで、桜満開の生田緑地を歩き、今まで植生管理を行ってきた場所を観察することにしました。

生田緑地の地理(里山倶楽部Aが活動してきた場所、トイレなど)、地形なども知ってほしいと考えたからです。

集合は生田緑地整備事務所前とし、簡単に自己紹介を済ませて出発しました。

事務所近くのコナラ、クヌギを観察して、里山の雑木林の主要な構成種についての話をしました。

里山倶楽部のメンバーには、知っておいてほしい樹木です。

観察会用に管理している崖面に咲いているタマノカンアオイを観察しました。

川崎市が標本原産地になっている唯一の植物です。



ピクニック広場の斜面に繁茂していたアズマネザサ、ヤマグワ、キブシ、ミズキなどを伐採して、草地にするための話し合いや伐採活動なども、里山倶楽部が行ってきたことを説明しました。

アオイスミレの花は終わっていましたが、タチツボスミレは最盛期といった様子でした。

昨年末の里山倶楽部Aでアズマネザサ刈りを行った場所では、降り落ちた桜の花びらのために目立たなくなっていたナガバノスミレサイシンや、オカスミレを観察しました。

マルバスミレやヤマルリソウも観察しました。



萌芽更新地区は、里山倶楽部Aも里山倶楽部Bも活動しています。

区域内には丁度、スミレが咲いていますので、状態を見易い、区域上の自然探勝路に集まって、萌芽更新地区の歴史から現状、そして今後について、様々な情報を提供しました。

1 月前に伐採した伐り株から橙色の樹液酵母が出ていました。

「防腐剤を塗ったのかと思った。」という発言もありましたが、樹液に天然の酵母菌が繁殖したものだという説明に、「お酒をつくれるかしら。」などの反応があり、流石は主婦だと感心させられました。

萌芽更新地区の下側デッキに移動して、萌芽更新地区を観察してもらいました。

3 年程前に伐採したクヌギ、当時年輪から読んだ樹齢は47 でしたが、そのクヌギの伐り株を観察しました。枝には枯葉がついていますが、まだ枯れてはいません。そのデッキで集合写真を撮りました。



ハンノキ林を紹介して、ハンノキ林上の池でアズマヒキガエルのオタマジャクシを観察しました。入ってくる湧水が少なく、水面が曇っていて見難い状態でしたが、田圃とは異なり、近くで観察できます。

キブシの花を目の前に寄せて観察し、新葉を出す直前のヤマコウバシを観察しました。

ハンノキ林は芽吹きだしたところです。

竹林下デッキに移動して、竹林下の水流の話、ハンノキ林下湿地地区の話などを行いました。



梅畑には、もうセリバヒエンソウが開花していました。皆さん、ご存知で、次回は駆除するのですねという言葉が聞かれました。

上の田圃では、私たちが再生した田圃で、里山の自然学校で田植え、稲刈りを行っていることを話しました。オタマジャクシは田圃の中央部で泳いでいました。

下の田圃は堰の脇から水漏れしていて、湛水していませんでした。イヌシデの雄花序が垂れ、ヤマザクラが咲き、アケビの花が咲いているのが見つかってしまいました。

戸隠不動尊跡の谷戸を眺められるデッキの辺りでは、腹減ったコールが始まりました。

里山倶楽部Bが活動している柵形山北尾根雑木林を観察して、アズマネザサの勢いを再認識し、どのように管理したら良いかを話し合いました。

ここから急な階段を城山下谷戸に降りました。

城山下谷戸の自然探勝路分岐点付近には落枝が散らかり、アズマネザサも繁茂していました。アブラチャンの実生がだいぶ育ってきました。大木のエノキは完全に枯れたので、そろそろ伐採しなければならぬだろうと思われます。アオイスミレはすっかり衰退してしまいました。状態を観察してから、若干の意見交換を行いました。



芝生広場では、開花したフデリンドウを観察し、水田ビオトープ班として保護活動を行っていることを話し、お弁当にしました。



その後、皆伐更新地区に移動しました。

道は分かり難くしてあるので、新たな参加者には教えておく必要があると思いました。

4月の皆伐更新地区を訪れるのは久しぶりなので、初めて来たような新鮮な印象を受けました。

芽吹きの子節ということもあるかも知れませんが、若齢林もいいなあと感じさせてくれる樹林になっています。

しかも、ヤマザクラが咲いていました。

実生が成長して初めて開花したのか、単に、ここ数年、春の活動をしていなかったために見ていなかったというだけなのかは分かりませんが、皆伐更新地区が「もう樹林になっているよ。」と話しかけてくれたように思われ、嬉しくなりました。



皆伐更新地区に隣接している雑木林で、里山倶楽部Bがモウソウチク除伐の活動をしている地区も観察しました。

除伐活動は、2014年11月に始めた活動で、5年続けていますが、林床に密生していたアズマネザサ刈りは、モウソウチク除伐の邪魔になるものを、その時その時に行っていた程度で、伐採材が無造作に積んでありましたので、美しさとは無縁の状態です。丁寧な里山倶楽部Aの作業との違いがあり過ぎでした。



皆伐更新地区を抜けて、花見客で賑わう榎形山に戻ります。



榎形山からは、自然探勝路を東口に降りました。



平成2019年度 里山倶楽部B 第1回

雑木林に侵入したモウソウチク除伐、アズマネザサ刈り

日時 平成31年(2019)4月20日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地飯室山南地区 A14

参加者 東 陽一、甘利 洋、岩淵裕輝、加登勇司、北川英樹、清田陽助、丹野光男、吉澤正一
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 10名

当該地区のモウソウチク除伐は、2014年の晩秋に始めた活動で、今までに6回、少しずつ場所を移しながら行ってきました。

今回は、アズマネザサ刈りにも力を入れることにしました。

微地形が見られるようになれば、目標の雑木林をイメージできるだろうという目論みでした。

そのためには、皆伐更新地区との境界部分のヤブを取り除かなければならないと思いますが、今回は今までのモウソウチク除伐の延長として進めることにしました。

今回の参加者は当該地区におけるモウソウチク除伐は経験済みなため、特別なレクチャーは必要ありませんが、モウソウチクを伐採する前に周囲のアズマネザサを刈ること、材を積むための場所をつくってから、モウソウチクを伐採して、材を片づけることをお願いしました。

モウソウチク除伐は2~3人でチームを組んで行うこととし、3チームに分かれて活動しました。Aチームが一番南側、住宅市街地に近い場所を選びました。





Bチームは、これに隣接した北側の谷状の場所を選びました。



Cチームは、皆伐更新地区に接する地区を選びました。



タマノカンアオイが開花していました。
集合写真を撮って、活動を終了しました。



帰り道には皆伐更新地区を観察してもらいました。
今春は、成長したヤマザクラの開花を確認しましたが、これが実をつけていました。
萌芽更新中のクヌギとコナラは、皆伐後、9年目になりますが、まだ枯れていません。
伐り株の直径の太さに驚いている人もいました。
本来の萌芽更新を理解するには、丁度良い状態になっていると思いました。

平成2019年度 里山倶楽部 A 第2回
セリバヒエンソウ駆除

日時 令和元年(2019)5月4日(土) 10:00~15:00

場所 生田緑地 梅畑、上の田圃地区

参加者

5年目 鈴木麻美、眞之介(小5)

4年目 新井みどり、康介(小4)

藤村望美、溪(小3)、花(幼児)

2年目 小野寺まなみ、柚月(中1)、花柑(小5)

佐藤奈緒、天音(小4)

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 14名

セリバヒエンソウは、中国原産のキンポウゲ科の植物で、明治時代に渡来し、東京を中心に分布、特に、相模原市、川崎市に多いとされています。

私たちが多摩丘陵在来の動植物の棲息環境を保全している谷戸では、林縁の明るい木陰の湿潤な草地に広がります。

土が柔らかい場所に生え、簡単に抜き取ることができるのですが、発芽時期に幅があるのか、草丈40cm程のものもあれば、10cm程で開花、結実しているものもあります。

また、一度駆除活動を行った場所でも、2週間も経つと、遅れて発芽してくるものが次々に成長、開花し、開花後直ぐに結実します。

効果的な駆除方法が見つからないまま、只管、見つけて抜き取る駆除を行っていて、先が見えません。

今年は10連休の中の土曜日になったためでもないでしょうが、駆除活動に参加してくれる人は少ない里山倶楽部となりました。

生田緑地整備事務所前に集合し、周囲を観察しながら、谷戸に降りました。

ハンショウヅルの花が開き始めました。

去年は、開花した日に花を摘み取られてしまいましたので、自然のものではあるが管理しているものだと分かるように、蔓が絡める棒を立ててあります。

ハンショウヅルは種子の形状が面白いので、これを観察できるように、花を摘み取ることはしないでほしいと思います。



ハンノキ林に近づいた辺りから、キビタキの声に包まれるようになります。

ハンノキ林の林床には、沢山のホウチャクソウが咲いています。

葉上に、ニッポンヒゲナガハナバチ?が、陽光を浴びて、ジッとしていました。



梅畑に着いて、直ぐに、セリバヒエンソウの駆除を始めました。
昨年の駆除活動にも参加してくれた人たちなので、細かい説明は不要でした。



田圃の水が少なくなっていたので、水漏れを調べて、水漏れ穴を塞ぎました。(活動を終了する頃になって、やっと水面が広がっていました。)

田圃には、10 日程前に入ってきたカルガモの夫婦が居ついていました。

オタマジャクシで遊んでいた子どもたちの話では、オタマジャクシは手足が出始めているようです。

木陰で、お弁当にしました。

皆さんが休憩している間に、下の田圃地区やヨシ原地区の様子を見に行きました。

シオヤトンボ(オス)がいましたが、1 匹だけでした。



木道わきの葉上にカナヘビが休んでいました。



ウシハコベが群落をつくっている所がありました。



午後も、活動を続けました。

セリバヒエンソウは、10cm 程の小さなものまで、花や実をつけていて、数は限り無く、もっと上手い方法は無いものかと思うのですが、・・・。



梅畑の活動に並行して、上の田圃下の草地のセリバヒエンソウ駆除も行いました。
この草地には、オニタビラコ、ヤブタビラコなどが咲いていました。



4 月末に中大型哺乳類調査の定点カメラ設置のために歩いた時に見られたセリバヒエンソウの花は少なく、
抜き取りながら歩いたのですが、この日は広い範囲に広がっていて、大きさも様々でした。

草むらに入って駆除をしていると、隠れていた様々な小さな昆虫が見つかりました。

クビキリギス成虫、ナナホシテントウの成虫とアブラムシを銜えた幼虫、クロハネシロヒゲナガ(オス)、ウス
イロクビボソジョウカイ?などが、また、昨年と同じ場所にフクログモ科と思われる、同じ色形のクモがいま
した。



このような薄暗い場所に入る子がいるとは予想していませんでしたが、どうも、定点カメラに撮影された子ども
もいるようでした。



集合写真を撮って、活動を終了しました。

活動中、天気は良く、暑いぐらいでしたが、終了する頃にな
って、怪しい雲行となり、雷鳴がとどろき、急いで帰途につ
きました。



平成2019年度 里山倶楽部B 第2回

萌芽更新地区を観察して、目標植生について考える

日時 令和元年(2019)5月18日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地萌芽更新地区、市民活動室

参加者 東陽一、加登勇司、北川英樹、清田陽助、藤間濤子、矢口菊子、吉澤正一、山本栄行
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美

合計 10名

最近の里山倶楽部Bは、モウソウチク除伐、大径木伐採とか、危険も伴う重労働ボランティアというイメージができてしまいましたが、そんな活動ばかりではなく、多様な活動の選択肢を用意したいと思っています。今回の里山倶楽部Bは、萌芽更新地区の植生管理について振り返り、今後の植生管理を考えてみることにしました。

市民活動室に集合して、先ず、次の①、②について、できるだけ共通認識を得ることを試みました。

①萌芽更新地区の管理経過の確認

②植生変化の概要

●1998年の伐採後10年間(前期という。)の植生調査結果と最近数年間(今期という。)の植生調査結果を比較してみると、前期では18%が帰化植物であったのに対して、今期では3%が帰化植物だった。帰化植物が少ないということは、雑木林としての更新・再生が進んでいると考えられる。

●今期については2年間調査したが、前期では4年間かかった更新が、今期では2年間で起きている。

●この違いは、前期が1度に1,200平方メートルを伐採したために広い裸地が生じたが、今期は10年間かけて少しずつ伐採してきたので裸地が生じなかったためではないかと思う。

●また、前期では50本もの苗木を持ち込んだが、今期は持ち込みがなかった。



それから、萌芽更新地区に移動して、③、④を行いました。

③現況植生、高木層、萌芽株、低木層などの観察

④皆さんが樹種不明とした樹木には名札をつけること





その後、市民活動室に戻って、休憩し、⑤、⑥について意見交換を行いました。

⑤現況観察で感じたこと、手を入れるべきと思ったことなど

- オカタツナミソウが沢山咲いていた。
- 現況植生は良好な状態にあると思う。
- 萌芽株の周りのアズマネザサ刈りを行ってきた。
- 低木層が繁り過ぎてきたと感じている。林内に入りたいという気にはさせてくれないが、萌芽再生には良いのかも知れない。
- 植物、樹木についての知識が全くなかったので、今日の活動は良かった。
- まだまだヤブじゃないかという人に対して、こんなに生きものが沢山棲んでいるということを発信すると良い。
- 生物多様性を考えると理想的な良い状態だと思う。



(上) オカツナミソウが多数咲いていました。(上右) ハンショウズルが咲いていました。(事務局も初めて知りました。)



(上) アカサガメがいました。(上右) マイマイガ幼虫をはじめ、数種の毛虫がいました。



(上) ヤマトシリアゲがいました。(上右) ヒラタアブの仲間の幼虫がいました。



(上) ジョウカイボンもいました。(上右) 伐採してきたクヌギの萌芽は順調に成長しています。

◎今後の目標植生

- 生田緑地では薪や炭の材が必要なのではないので、伝統的里山管理といっても、材の生産性を問題にする必要はない。
- 生物多様性を重視して、高木以外の植物、更には動物も大事にする管理が良い。
- 棲息している生きもの情報を適切に発信していくべき。

平成2019年度 里山倶楽部A 第3回

萌芽更新地区のアズマネザサ刈り

日時 2019年6月1日(土) 10:00~15:00

場所 生田緑地 萌芽更新地区

参加者

3年目 杉本貴子、孝、大知(小6)

2年目 佐藤奈緒、天音(小4)

山本栄行、優真(幼児)、環希(幼児)

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 10名

6月の里山倶楽部Aは、萌芽更新地区のアズマネザサ刈りを行い、伐り株からの萌芽枝の状態を調べ、ムラサキシキブなど、低木の生育状態を調べ、林内管理通路の検討を行いました。

参加者は少なく、全域のアズマネザサを刈るのは困難でしたが、林内各所に小さな空間をつくれれば良いと考えました。

樹木の葉上には、マイマイガ、カシワマイマイなど、数種の蛾の幼虫(毛虫)がいました。

夏に向かって枝葉の伸張が始まっており、それらを所々で剪定しながら、通行可能なルートをつくる準備を進めました。





午前中だけ参加の人たちが帰ってから、お弁当を食べました。





カシワマイマイの幼虫は、前後に飛び出した長いひげが、マイマイガの幼虫は背中に二列に並んだ赤と青の点
が特徴的です。



木々の間や上空を、イチモンジチョウ、モミスジなどのチョウが飛んでいました。



アズマネザサの新稈が 30cm ほどに伸びている開けた場所で活動していたら、大きな薄茶色の蛾が飛び出して、アズマネザサの間の地面に降りました。観察したところ、オスグロトモエのようでした。木道の手摺には、(下右)トビモンオオエダシャク幼虫がいました。



ムラサキシキブも葉上には、イチモンジカメノコハムシがいました。(下右)アカメガシワの葉上に、ヤマトシリアゲがいました。



ヤブキリの幼虫もいました。(下左) 林内にできてきた小さな空間には、シロヤマオニグモ?が円網を張っていました。(下右)



ニワトコの実が赤くなっていました。



ハウチャクソウに緑色の実がつき、ナルコユリの花が咲いていました。



平成2019年度 里山倶楽部B 第3回

第3回里山倶楽部B（東生田2丁目地区を歩く）

日時 2019年6月8日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地

参加者 東陽一、岩淵裕輝

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 4名

今回の里山倶楽部Bは、生田緑地東生田2丁目地区の自然観察（宝探し）を行いました。

生田緑地の中央地区と東地区は、都市計画街路で隔てられているばかりでなく、元々、東生田2丁目地区は住宅地として造成された地区ですから、植生管理を考えると、いきなり中央地区と同じように考えていくことは問題があるかも知れません。

求められている課題は回遊性の向上であり、その解決策の一つが中央地区とバラ苑を結ぶフートパスの構築だろとうと考えています。

快適で、歩きたくなるようなフートパスをつくっていくことが、具体的な解決策であり、課題解決の一步になるだろとう思います。

将来的には、それを検討することになるだろとう考えながら、今回は、地域を観察して歩き、取り扱いに注意すべき宝を探すことにしました。

生田緑地ビジターセンター前に集合してから出発しました。



ウメの実がたわわに実っていました。



上総層群飯室層の露頭がありましたが、風化が進んでいるように感じました。



庭に植えられていたと思われるヒバに実が着いていました。



ま

え

道路は狭いのですが、中央地区側の雑木林が良く見えます。



「生田緑地飯室西地区急傾斜地崩壊危険区域」の案内がありました。



ヤブの中で、ユスラウメの実が熟していました。



住宅跡地に、ムラサキツユクサが咲いていました。



いきなり舗装路が終わって、街の景色が広がりました。



更に、一際狭い未舗装の道が方向を変えて一区画分続いていましたが、その突き当りで、道路は通行止めになっていました。



2014年11月からモウソウチクの除伐を行っている飯室山南地区を眺めました。



道路上に、タカチホヘビ幼蛇の死骸がありました。庭に植えられたベニバナチャが咲いていました。



垣根に植えられたウキツリボクの葉に、ラミーカミキリがいました。
 ウキツリボクは、チロリアンランプとも呼ばれる、ブラジル原産のアオイ科の植物です。
 ラミーカミキリは、イラクサ科のカラムシ、ヤブマオ、アオイ科のムクゲなどを食草とするカミキリムシです。
 原産地はインドシナ半島、中国、台湾で、国内では西日本では普通に見られるようになっていましたが、生田緑地でも少ないながら毎年見られるようになってきました。



ばら苑に向かう道は整然として良好に見えますが、歩いている時の景観として歩行者を楽しませる設えになっているかは疑問です。



一休みして情報を記録し、樹林の道を歩く準備をしました。



雑木林の中では、アオゲラが鳴いていました。

昨年秋の台風によって折られたコナラが無残な姿を見せていました。



先ほど、通行止め措置がされていた場所まで、ヤブ状態の尾根路を降りて行こうとしましたが、昨夜の雨に濡れたアズマネザサの茂みのヤブ漕ぎであったため、途中で断念して、整備された道まで引き返しました。
 この尾根道は、片側が踏み跡の際まで崩れている区域がありました。



また、分岐点付近のヤブの中には、ホームレスの小屋がありました。



分岐点にもどってから、整備された道からの自然観察を続けました。

相変わらず、アオゲラの声が続いていました。雑木林の遷移は進んで、繁みも濃くなっているように思いました。

また、この辺りの林床は裸地が多くなっていました。



林縁は明るくなり、道路脇に、ヤマシロオニグモが大きな円網を張り、カタハリウズグモが葉陰の水平網にウズ状に隠れ帯をつけ、オシロアシナガゾウムシがクズのツルの先に止まっていた。



道路に面した崖面にコマツナギが広がって咲いていました。その辺りを、ルリシジミが数頭、飛んでいました。



「生田飯室東地区急傾斜崩壊危険区域」の案内がありました。



たった 4 人の里山倶楽部B（東生田 2 丁目地区中央部の自然観察）を終えて、ビジターセンターに移動し、休憩、意見交換を行いました。

地形的にも、中央地区同様に急峻であるばかりでなく、住宅地と樹林が接していることを考えると、例えば、大木化した樹木の伐採だけ考えても、容易ではないと推察されます。

残念ながら、今回は、宝物と言えるようなものは見つからなかったという評価となりました。

改めて、タカチホヘビ幼蛇の死骸の写真を撮って解散しました。



平成2019年度 里山倶楽部 A

第4回里山倶楽部 A (七夕飾りづくりと萌芽更新地区のアズマネザサ刈り)

日時 2019年7月6日(土) 10:00~15:00

場所 生田緑地 市民活動室、萌芽更新地区

参加者

6年目 山下まい、ねのは(小6)

4年目 池上幸一、豪一郎(小3)

2年目 小野寺まなみ、柚月(中1)

佐藤奈緒、天音(小4)

山本栄行、優真(幼児)、環希(幼児)

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 13名

7月の里山倶楽部Aは、午前中は七夕飾りづくり、午後は萌芽更新地区のアズマネザサ刈りを行いました。



完成した七夕飾りは、生田緑地整備事務所前に立てて、記念写真を撮りました。



タマムシを見つけました。
右前脚が無く、体が思うように動かないようでした。



谷戸に降りる階段には、ダンゴムシやアズキガイ、キセルガイなどがいました。



木製階段は一部、腐食も進んでいるのか、踏面からキノコが生えていました。



萌芽更新地区はしっかり濡れていて、活動はできないと思っていましたが、意外にも、乾いている場所もあり、林内の活動も可能でした。





タケニグサは勢いよく花をつけ、ヤブミョウガ、ヒヨドリバナなどは蕾をつけ始め、ナルコユリなどは実をつけ、オトコエシは 40~50cm に芽を伸ばしていました。

低木のムラサキシキブ、ウグイスカグラなどの茂みの周りは暗くなっている、アズマネザサがヤブをつくり始めていました。

周囲の低木が繁っている場所では、クヌギの萌芽株にも、アズキガイが集まっています。

ムモンアシナガバチ?が初期巣をつくっているところがあり、4~5匹のハチが半径 50cm ほどの所を飛び回る結果にしてみました。

クロアゲハ、ヒカゲチョウなど、数種のチョウが、活動中の樹林内を飛んで、目を楽しませてくれました。

萌芽更新地区の活動は、時間をみて終わりにし、集合写真を撮りました。



平成2019年度 第4回 里山倶楽部B

野鳥の森中央の観察舎周辺の植生管理

日時 令和元年(2019)7月20日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 野鳥の森地区

参加者 岩淵裕輝、加登勇司、北川英樹、丹野光男、三上正徳、吉澤正一

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美

合計 8名

7月の里山倶楽部Bは野鳥の森の中央部、野鳥観察舎周辺の植生管理を行いました。当該地区の管理活動は、2017年7月の里山倶楽部Bから始めたので、3年目になります。主たる目的はコアジサイの保護でしたが、今年の開花は良好でしたので、林床の明るさは良い状態になっていると考えます。

そこで、今回の活動対象地区を観察舎の南側、北側、東側に分けて活動内容を次の様に設定しました。

①南側地区は、2年間に、アズマネザサを除伐した範囲に新たに見られたアズマネザサなどを刈る。

②東側地区は、下の園路に向かう崖面の少し手前まで、アズマネザサを除伐する。

③北側地区は、残るアズマネザサ、ヒサカキ、アオキなどの大木を除伐して明るくする。

この斜面下の園路は、2014年10月の里山倶楽部Bによって、園路を覆っていたアズマネザサ、アオキ、夏に繁茂したツル植物などを除伐した場所で、キバナアキギリが見られるようになっていました。

このキバナアキギリが、更に広がってくれるように、常緑樹やアズマネザサを除伐する活動を行いました。

また、頂部の観察舎裏の大木化したヒサカキを数本伐採し、林床を明るくしました。



①南側地区





③北側地区（頂部付近を含む）



休憩してから集合写真を撮りました。



②東側地区



③北側地区



この日の活動を終わりました。

風は無く、皆、全身が汗まみれとなりました。

鳴き始めたばかりのニイゼミの単調な声は、暑さを和らげてはくれませんでした。

当該地区は、感覚的には、活動の度に、居心地の良い景観になってきたと感じています。

来年、コアジサイが咲く頃に、また、観察したいと思います。



平成2019年度 里山倶楽部A

第5回里山倶楽部A（萌芽更新地区のアズマネザサ刈り）

日時 2019年9月7日(土) 10:00~14:30

場所 生田緑地 萌芽更新地区

参加者

4年目 池上幸一、陽子、豪一郎（小3）

藤村望美、溪（小3）、花（幼児）

3年目 新井みどり、康介（小4）

杉本貴子、大知（小6）

1年目 中村瑞季、さち（幼児）

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 14名

晴れて暑くなりましたが、萌芽更新地区のアズマネザサ刈りを行いました。

萌芽更新地区上側の自然探勝路から入ることにして、始めに集合写真を撮りました。



ここのオトコエシは高さ 2mあると思います。



萌芽更新地区は高木層のクヌギの伐採を終えたところですから、木陰は少なくなっています。それでも、萌芽株や低木の繁っている下に木陰ができていますので、そんな場所のアズマネザサだけを刈ってくださいをお願いしました。その代わりに、活動の様子を撮影することは難しくなりました。



最近の子どもたちはアメリカザリガニ釣りの経験が無いようなので、お母さんたちがアズマネザサ刈りをしている間、直ぐ下のハンノキ林上の池で、ザリガニ釣りを体験させることにしました。釣り竿は細めのアズマネザサを現地調達しました。タコ糸は倉庫にあるものと思っていたのですが、見つかりませんでした。仕方なく、スズランテープで代用することにしました。餌は、いつものスルメです。皆、気が短くて、動きが速くて、ザリガニのペースに合わせられないようでしたが、何とか2頭釣れたので良かったです。これも一応、外来種駆除の活動なので、里山倶楽部Aの活動としても問題ないでしょう。





木道の日陰部分にシートを敷いて、お弁当を食べました。



花盛りのオトコエシに、ダイミョウセセリ（下左）、キンケハラナガツチバチ（下右）、キオビツチバチ、コアオハナムグリ（次頁左）などが吸蜜に来ていました。



クロヒカゲ（下右）は、木陰に飛来していました。



午後も、木陰中心にアズマネザサ刈り続けましたが、暑さが辛く感じるようになったので、この日の活動を終わりにしました。

林内の小さなイヌザンショウにアゲハチョウが飛んで来ていました。





活動を終えて、生田緑地整備事務所前で解散しました。皆さん、お疲れ様でした。

平成2019年度 里山倶楽部B

第5回里山倶楽部B（萌芽更新地区の萌芽更新管理）

日時 2019年9月21日(土) 10:00~13:00 曇、24.8℃

場所 生田緑地 萌芽更新地区

参加者 北川英樹、清田陽助、山本栄行、吉澤正一

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 6名

里山倶楽部Bでは、今年3月まで、1998年末に補植されたクヌギなど、大径木の伐採を行っていました。それから半年経った萌芽更新地区は、樹木が繁茂し、オトコエシが花盛りになっていて、急に別世界に飛び込んだような感覚さえ感じます。

萌芽更新目的の伐採は2017年から実施してきましたから、萌芽枝は2~5mになっています。

しかし、萌芽株の周りの様々な樹木も大きく育っていて、萌芽株を包み込んでいます。

私たちの萌芽更新地区における活動は、伐り株の萌芽枝や、実生のコナラ、クヌギなどのほか、この場所で高木として育てるべき樹木を育てて、雑木林にすることです。

この日は、里山倶楽部Aの活動では残していた区域縁辺部のアズマネザサ刈り、伐り株周りのアズマネザサ刈りや不要な実生樹木の除伐、萌芽枝の成長を阻害していると思われる樹木を剪定するなどして明るくする活動などを行いました。

予報されていた弱雨は無く、気温が下がっていたため、活動は楽でした。

ヒヨドリジョウゴが咲いていました。（下）





途中で一度休憩しました。



オトコエシは未だ盛んに咲いていて、キオビツチバチ（下左）、タカサゴモモフトハナアブ（下右）のほか、様々なハエ・アブの仲間が吸蜜に来ていました。





活動終わりに集合写真を撮りました。



47 齢で伐採したクヌギからの萌芽は元気ですが、伐り株からは沢山のキノコが出ています。



平成2019年度 里山倶楽部 A

第6回里山倶楽部 A (萌芽更新地区の萌芽更新管理)

日時 2019年10月5日(土) 10:00~14:30

場所 生田緑地 萌芽更新地区

参加者

7年目 山下佳保里

6年目 山下まい、ねのは(小6)

4年目 池上幸一、陽子、豪一郎(小3)

猿谷明衣(中2)

藤村望美、溪(小3)、花(幼児)

3年目 新井みどり、康介(小4)

杉本貴子、大知(小6)

2年目 小野寺まなみ、花柑(小5)

佐藤奈緒、天音(小4)

1年目 中村瑞季、さち(幼児)

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 20名

この日は、再び夏に戻ったような陽気でしたが、萌芽更新地区の植生管理の考え方について説明してから、アズマネザサ刈りおよび樹林育成のための低木管理などを行いました。

10/3(木)の水田ビオトープ班の活動で、ハンノキ林上の池の泥上げを行っておいたので、この日に参加した子どもたちには、アメリカザリガニ釣りを楽しんでもらうことにしました。

アメリカザリガニ駆除も、谷戸の水辺の重要な自然保全活動です。

竿はいつものように、アズマネザサにタコ糸をつけたもので、餌はスルメです。

後は、自分で考えて、工夫して、釣ってもらうことにしました。

安全確保のための見張は、交代で誰かが見ていることにしました。





萌芽更新地区のイヌシデの大木の高さ 10mほどの所にキイロスズメが巣をつくっていたのですが、これをオオスズメバチが襲ったようです。

アズマネザサ刈りをしている所に、上から、オオスズメバチとキイロスズメバチが組み合ったまま、ポタポタと音を立てて、落ちてきて、そこから、また戦いがはじまるという光景が繰り返されていました。とばかりを受けては拙いので、巣の下には近づかないようにしてもらいました。



この日の里山倶楽部の活動は、皆さんには、伐り株や実生の周囲を中心に、アズマネザサを刈ってもらいました。



虫好きのお母さんがキイロスズメ（蛾）の幼虫を見つけました。食草であるヤマノイモを食べていたところを見つけたようです。

ほかのお母さんたちも興味津々でした。



午前中の活動を終えて、集合写真を撮りました。



午後も活動を続けましたが、気温は 30℃を超えて、直射日光を受ける場所での活動は辛くて、長くは続けられませんでした。





萌芽更新地区の南地区 A06-1b は伐採後に急に明るくなったことで、東南アジア原産で稲作と共に日本に渡ってきた史前帰化植物のアキノノゲシ（下左）や、アフリカ原産の帰化植物ベニバナボロギク（下右）や、北アメリカ原産の帰化植物コセンダングサ（下下）などが花を咲かせていました。



また、南方系の種であるツマグロヒョウモン(メス)が見られました。



午前中のみでの活動で帰る人と午後から参加の人が入れ替わって、集合写真を撮りました。



9/15(日)の自然会議の勉強会において報告させていただいたように、萌芽更新地区は 1998 年末に、国庫補助事業による伐採、補植が行われた地区で、その時に「萌芽更新地区」と名付けられたのですが、伐採後の更新管理が行われないまま経過して、2008 年 1 月に萌芽更新が失敗したことを市民部会において確認することとなり、改めて、萌芽更新管理が行われている場면을観察できる樹林にすることを目的に、10 年間、里山倶楽部Bによって大径木の伐採を行ってきました。

今年 5 月の市民部会（里山倶楽部）において、現況植生をモニタリングして、今後の植生管理について話し合い、伝統的な里山管理である萌芽更新などの手法を用いながら、多様な生物の棲息が可能な環境を目指すことを合議しました。

そして、里山倶楽部参加者には、皆伐更新地区の活動と同様にアズマネザサだけを刈る活動をお願いしています。

同時に、事務局では、大きく繁茂していた低木層であるべき樹木を剪定したり、伐採したりして、茂みの中を人や風が通れるように、また光が入るようにする活動を進めることにしました。

伐採した伐り株からの萌芽は大きく育っていますし、実生木も育っています。

まだ、全域については、この管理を終えてはいませんが、終えた範囲を観察していると、樹林とするのに、もう、そんなに長い時間はかからないのではないかと思われてきます。

皆伐更新地区の更新管理では、草本は全て無視して、樹林に育てることだけを考えて活動していましたが、ここでは、草本も楽しみながら樹林に育てることができそうにも感じています。



平成2019年度 里山倶楽部B
第6回里山倶楽部B（伐採更新を考える）

日時 2019年 10月 19日(土) 10:00~13:00 雨後の曇
場所 生田緑地 生田緑地整備事務所裏～芝生広場～上の田圃～ハンノキ林～萌芽更新地区～
参加者 東 陽一、加登勇司、北川英樹
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 5名

第6回里山倶楽部は早春に咲く草本（スプリングエフェメラル）のためのアズマネザサ刈りを計画していましたが、直前まで続いた雨のため予定を変更して、新たな伐採更新を考えるための観察&意見交換会を行いました。

コースは上記としました。

生田緑地整備事務所裏の尾根を芝生広場まで歩きながら、確実に更新をやり遂げられるか、里山倶楽部AおよびBで楽しめるか、大径木の伐採を里山倶楽部Bとして実施できるかなどを検討して対象地区を選ぶことを試みました。

生田緑地でもナラ枯れが始まっていますので、コナラ若齢林づくりを急ぐべきと考え、里山倶楽部による更新管理が可能な地区選びから始めてみました。



カシノナガキクイムシの穿孔によるフラシを観察し、ナラ枯れ、伝統的な里山管理とコナラ、クヌギ、これによる昆虫相とその変化など、生田緑地の生物多様性についての考え方など、基本的な事項について話し合いました。



尾根の両側は、概ね、急傾斜地ですが、支尾根の頂部では緩い斜面が狭いながらあり、コウヤボウキ（下左）の花が咲き、コバノガマズミ（下右）が紅い実をつけていました。

こんな場所でも、高木を伐採してギャップをつくれれば、伐採更新が可能かも知れないと話し合いました。



芝生広場上辺りからは、昨年からの台風によって折られたコナラなどが目立ちました。

北向きの斜面ですが、斜面勾配からも、面積からも、この地区なら、里山倶楽部というボランティア活動で進めることができそうです。

丁寧な管理が可能な規模の伐採更新を繰り返して、少しずつ範囲を広げて、当該地区全体の伐採更新として組み立てる方法が可能ではないかと考えました。



里山倶楽部Bの皆さんにも、田植えや稲刈りを手伝っていただいた田圃に立ち寄って、梅畑で集合写真を撮りました。



クサギの実ができていました。(下左)



ハンノキ林も観察して、保全について説明し、意見交換を行いました。



萌芽更新地区も観察しました。



クヌギの萌芽更新目的の伐採を行ってきた冬とは異なる景観を観察しました。

オトコエシの花は、まだ咲いていて、キンケハラナガツチバチ(下左)が吸蜜に来ていました。

また、ホトトギス(下右)が咲いていました。



里山倶楽部Bでは、この10年間、萌芽更新地区を萌芽更新地区と呼べる樹林にするための大径木の伐採も行ってきました。

場所を選べば、大径木の伐採から始める伐採更新を実行することができると思っています。

今回は、その対象地区の選定ができたと思います。

但し、対象地区全体を一度に皆伐する普通の方法ではなく、樹木などの状態を観察しながら数年かけて伐採する方法をイメージしています。

樹木の伐採まで市民活動として行うのであれば、このための予算取りは不要ですが、自然会議における合意、当該地区の伐採更新についての情報の告知、植生等の自然についての意見交換などは 行っておくべきかも知れません。

また、活動開始前のアズマネザサ刈り、園路と区域境界部の柵の設置、案内看板の設置なども必要になるでしょう。

平成2019年度 里山倶楽部A
第7回里山倶楽部A（皆伐更新9年目の植生管理）

日時 2019年 11月 2日(土) 10:00~14:30 21.2℃

場所 生田緑地 皆伐更新地区

参加者

6年目 山下まい、ねのは(小6)

4年目 池上幸一、陽子、豪一郎(小3)

1年目 佐野直美、歩(小3)

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 9名

11月の里山倶楽部Aは、皆伐更新地区の植生管理を行いました。

落葉前なら、まだ植物の状態を見ることができるだろうということ、もしかすると昆虫との出会いもあるかも知れないという期待がありました。

皆伐更新地区は、コナラの若齢林を育てるという目的を更新7年目に達成し、今年は9年目です。

萌芽更新は不可能と言われた雑木林でしたが、クヌギとコナラの1本ずつは萌芽更新中です。ただし、高さは実生コナラに負けています。

実生のコナラやヤマザクラの成長にも差が見られるようになりました。

数年後には萌芽更新を考えることになりそうですが、それまでは、高木を育てるための択伐と下草刈りを続けてみようと思います。

今回も、参加者にはアズマネザサだけを刈る活動をお願いしました。

岩田は、コナラやヤマザクラの下枝落とし、クスノキの伐採、サンショウ、ムラサキシキブ、ヒメコウゾなどの剪定など、高木を育てるための活動や、木々の下に育ってヤブをつくりつつあったアズマネザサを刈りました。

生田緑地整備事務所前に集合して、初めて里山倶楽部に参加する母子のために、自己紹介を済ませてから、皆伐更新地区に向かいました。



園路から離れて皆伐更新地区に向かう道は、入り口付近の倒木を除けば、荒れた状態ではありませんでしたが、初めての参加者には恐い印象を与えたかも知れません。

皆伐更新地区入口（いつもお弁当を広げる場所）で活動について説明し、林内を歩いて状態を確認してから、アズマネザサ刈りを始めていただきました。





萌芽更新と言うには余りに弱弱しいのですが、生きてはいるクヌギとコナラの伐り株周りのアズマネザサは丁寧に刈りました。



ツチグリの仲間（下右）が見つかり、皆で観察しました。





集合写真を撮ってから、お弁当を食べました。
 メジロが直ぐ近くの木に飛んで来て、楽しませてくれました。



午後も一頑張りしました。



一日の活動を終えて、生き残っているクヌギの萌芽株を前に、萌芽更新について話し合う場面もありました。萌芽更新は萌芽枝に命が引き継がれ、伐り株自体は中から朽ちて消えていくことを見て理解することができる状態になっています。



皆伐更新地区が樹林と言える状態になったことは、アズマネザサの育ちが悪くなったり、夏草の繁茂が少なくなるなどの現象にも表れていますが、今回は参加者が少なかったものの、必要な植生管理はできたと思います。

平成 2019 年度 里山倶楽部 B

第 7 回里山倶楽部 B (中央広場北側雑木林の植生管理)
広場から雑木林を楽しんでもらうためのアズマネザサ刈り

日時 2019年 11月 16日(土) 10:00~13:30

場所 生田緑地 中央広場北側雑木林

参加者 東 陽一、岩淵裕輝、加登勇司、北川英樹、清田陽助、額谷悠夏
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美 8名

当該地区の植生管理は、2011年 5月に、現地調査、現地会議を行って、目標植生を話し合い、低木層にヤマツツジが咲く雑木林としました。

その時の現地には、民家園に植栽された竹が地下茎を伸ばして広がって繁茂し、高さ 3mを超えるアズマネザサが生い茂り、ゴミが投棄されていたりして、近づきたくない状態のヤブになっていました。

中央広場の噴水を撤去して、草地の広場に整備するのであれば、この場所に魅力的な雑木林を演出して、一般市民に、生田緑地の自然の一面を知ってもらい、関心を持ってもらうために効果が期待できるような雑木林をつくろうと考えました。

スタートとなるヤブの伐開は行政側に担当していただき、夏期に実施しました。

市民側の活動のスタートは、その年の 12 月で、里山倶楽部を開催し、立教大学の学生さんたちの参加を得て、低木層~亜高木層の樹木の択伐やアズマネザサ刈りを行いました。

その後は 2 年を超えて放置することは無いように、里山倶楽部または水田ビオトープ班の活動として、何とか管理を行っています。

目標植生であったヤマツツジの咲く雑木林は達成できています。

今回の里山倶楽部は、いつものメンバーに加えて、前指定管理者のスタッフとして生田緑地で働いている市民の立場で里山倶楽部に参加していた額谷さんが、久しぶりに参加してくれました。

秋晴れの土曜日、中央広場には大勢の来園者が訪れていました。

その中に、「ボランティアでやっているのですか?」「有難うございます。」などと声をかけてくれる人がいました。

そうかと思うと、管理作業員が翌日のイベントの準備をしているのだと思ったのか、「明日のイベントはどんな内容なのか?」と尋ねて来る人もいました。

最近気がついたのですが、生田緑地内の数ヶ所で、管理活動をしている団体名を標記している看板が立てられている場所があります。1ヶ所でも、そのような看板が立てられると、当該団体だけが植生管理活動を行っていて、その他の場所は全て、指定管理者が行っていると解釈する来園者が殆んどだと思います。

どのような根拠で特別扱いをしているのか明らかにして、公平性を担保するようにして欲しいと思います。

また、北側の中央幹線園路に近い尾根部に、サクラなどの伐採材などが積まれていました。

園路からは見えない場所なので今まで気がつきませんでした。指定管理者によるものと思われます。

丁度、そこは重要な希少種が生育する場所だったので、驚きました。

当該地区を保全管理している団体に無断で、樹林地等に、処理材を廃棄する行為は止めてもらわなければなりません。

私たちが活動している樹林は、ゴミ捨て場ではありません。









前半の活動を止めて休憩し、集合写真を撮りました。



13:00 の活動終了時間に合わせるために、片付け作業に移りました。



片付けを終えて休憩し、ナラ枯れや伐採更新について、歓談しました。



林内には、ヤブコウジが赤い実をつけていました。



平成2019年度 里山倶楽部A

第8回里山倶楽部A（ピクニック広場下のアズマネザサ刈り）

日時 2019年 12月 7日(土) 10:00～15:00 5.0℃

場所 生田緑地 ピクニック広場下地区

参加者

4年目 池上陽子、豪一郎（小3）

3年目 杉本貴子、大知（小6）

2年目 佐藤奈緒、天音（小4）

1年目 佐野直美、歩（小3）

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 10名

令和元年度里山倶楽部Aの最終活動日ですが、朝から微かに小雨が降っていました。予定していた活動は、昨年末にも実施したピクニック広場下のアズマネザサ刈りです。活動を始めて30分ほど経った頃、雨が強くなってきたので、市民活動室に避難しました。冷たい小雨が降る寒い朝でしたから、活動は休んだ方が良いと思っていたので、抵抗はありませんでした。



市民活動室に移動する前に、午前中の参加者の集合写真を撮りました。



避難した市民活動室では、リースづくりを行いました。先日の里山の自然学校の続きのような活動になりました。

里山倶楽部Aは、小さな子どもたちが参加しています。いろいろな形で自然との触れ合いを楽しんでもらいたいと思います。





雨が止んだので、室内でお昼のお弁当を済ませてから、活動を再開しました。

お昼に 2 人帰りましたが、午後から参加の母子が加わって、いつもなら遊んでいる子どもたちが、皆、せっせとアズマネザサ刈りをしてくれました。





午後の参加者の集合写真を撮って、この日の活動を終えることにしました。
来春にはスミレが咲いてくれて、来園者が楽しむことができるでしょう。



専修大学との境界部付近のアズマネザサのヤブを刈り取ったら、園路沿いの草地在外と広いことが分かりました。
今まで眠っていた様々な植物が目覚めてくれると楽しい園路になるでしょう。

平成 2019 年度 里山倶楽部B
第 8 回里山倶楽部B（竹林管理）

日時 2019年 12月 21日(土) 10:00~13:30

場所 生田緑地 竹林地区（A08）

参加者 東 陽一、岩瀨裕輝、加登勇司、北川英樹、清田陽助、丹野光男、長澤正広、吉澤正一
（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 10名

12月の里山倶楽部Bは、竹林地区(A08-1)のモウソウチク伐採を行いました。

前回の竹林管理は、2018/11/17(土)で、参加者は8人でした。

今回は、竹林管理としては、人数が多く、一人を除いては常連さんで、飯室山南地区の雑木林に侵入したモウソウチク除伐でも活躍していますので、考えていた必要事項は達成できたと思います。

里山倶楽部としては、生田緑地の生物多様性を保全するための多様な活動を楽しんでもらうことを重視しています。

モウソウチクの伐採は、ノコギリで伐ることは容易いのですが、混みあった竹林では、倒すことは大変です。

湿地地区に面した竹林

谷戸の湿地地区にはハンノキ実生が育って、ハンノキ林が拡大した形になっていますが、ハンノキ以外の実生も育ち、明るくあるべき湿性草地が少し暗くなってきたのではないかと思います。

そこで、水田ビオトープ班としては、サクラの仲間や、モミジ、ウツギ、ヒメコウソなどの除伐を行っていますが、隣接する竹林の裾刈りが必要だと思っていたので、湿地地区に面した竹林の裾部のモウソウチクを除伐する活動を里山倶楽部Bの活動として実施しました。その観点からは、今回の参加者は“頼もしい”参加者でした。

生田緑地整備事務所裏の倉庫前に集合して、ヘルメット、ノコギリを装備し、挨拶を済ませてから、谷戸に降りました。



竹林（A08-1）のうち湿地に面した部分を集中的に除伐するために、竹林と湿地地区の間の園路から園路沿いのモウソウチクを除伐する活動を始めました。









竹林内部の枯れたモウソウチクの除伐

この谷戸の竹林は隣接する住宅地の照明の光が谷戸に入ることを少しでも遮るため、また、モウソウチクを材として利用するための二つの目的で、竹林として残しています。

竹林内部の枯れ竹の除伐は、普段はデスクワークに追われている二人に任せました。

竹林は、枯れていたモウソウチクを除伐することで、汚らしい感じは無くなりました。





活動を終えて、休憩して生田緑地の谷戸の田圃で収穫した米のオニギリを味わってから、集合写真を撮りました。



生田緑地整備事務所裏に戻って、解散しました。



※注意) 一部の写真は、アートフィルターを用いて画像処理をしてあります。

第9回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り）

日時 2020年1月11日(土) 10:00~13:30

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 AO9-8

参加者 東 陽一、岩淵裕輝、加登勇司、藤間淑子、長澤正広
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生、岩田芳美

7名

生田緑地でも、昨夏からナラ枯れが始まりましたので、若いコナラ林を広げておく必要があると考え、新たな伐採更新を企画しました。

場所は、10/19(土)の里山倶楽部Bで、現地での意見交換を行った芝生広場上の雑木林です。

このために、今冬の里山倶楽部Bの予定を変更して、この新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈りを行うことにしました。

皆伐更新地区の伐採更新では、皆伐によるインパクトによって埋土種子を発芽させ、樹林に育てることだけを考えて、植生管理を行いました。

しかし、芝生広場上の雑木林には希少種が生育していますので、これを消してしまうことのない伐採更新を行いたいと考えています。

そうは言っても、コナラの萌芽更新は期待できませんので、伐採によるインパクトは可能な限り抑えて、コナラやヤマザクラなどの実生を育てる管理を行わなければなりません。そこで、繁茂しているアズマネザサを刈って、植生を調べて、伐採更新の方法を考えることにしました。



里山倶楽部Bは、毎月第3土曜日を定例活動日にしていましたが、今回のように1~2月の可能な全ての土曜日を対象にして、集中的に活動することにしても、参加してくれる人はいないかも知れないと思いました。

しかし、嬉しいことに、4人の参加者がありました。

また、伐採更新による植生変化研究に燃えている植物班の藤間が、伐採する前の状態も調べておきたいと、参加することになりました。

当日は、いつものように生田緑地整備事務所裏の倉庫前に集合してから、現地に向かいました。



現地雑木林の上の方のベンチ付近に持物などを置いて、その周辺から落枝の片付け、アズマネザサ刈りを始めました。



樹林地と園路との間の柵が無い部分があるので、落枝や刈ったアズマネザサを積んで、柵代わりにするようにしました。

アズマネザサを刈っていくと、何本もの倒木が転がっているのが分かりました。

また、沢山の低木が生えていることも分かりました。

更に、タマノカンアオイや数種のラン科植物も見つかりました。

密かに期待していた宝物がいくつも見つかりましたので、これらには目印を付けました。





休憩しました。



予定時間になったので、活動を止めて、休憩し、集合写真を撮りました。

今回の活動を通して、今までの里山倶楽部Bで活動してきた雑木林に比べて、かなり緩傾斜地であること、多様な落葉樹が多数あること、それらの大径木がつくる景観は魅力的と想像されることなどが分かりましたので、これからの伐採更新は楽しみであると同時に悩むことも多くありそうだと思います。



ナガバジャノヒゲの実が青く輝いていました。



第10回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 2）

日時 2020年 1月25日(土) 10:00~13:30

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 岩淵裕輝、加登勇司、北川英樹、藤間淑子、長澤正広、政野祐一、吉澤正一

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 9名

ウスバフユシャク(オス) が手摺にいました。



1/11(土) に始めた芝生広場上雑木林の伐採更新のためのアズマネザサ刈りは、1/18(土) が雪のために休みましたので、今回は 2 回目です。

前回活動した範囲の北側に刈り進めて、芝生広場上のドウダンツツジの生垣に達しましたが、大きな倒木や伐採材がアズマネザサの上に載っていて、その上に落葉が積もっているなど、アズマネザサ刈りを楽しめない場所があり、時間を取られました。

この辺りのアズマネザサは、高さ 4mを超えていました。

埋もれていたベンチが現れました。

落葉しているので樹種の判断は難しいのですが、高さ 1~2mの幼木が多数見られました。

広場に枝を広げているモミジの種子が飛んで来たのか、斜面の下の方には、モミジの稚樹が育っていました。昔、芝生広場の整備をした時に、この斜面にサクラの苗木を植えたものなのか、植樹用の鳥居型支柱や、枯れかけているサクラなどが残っていました。

茂みの中に、アズマネザサの葉を多用した野鳥の巣が落ちていました。

刈ったアズマネザサは柵代わりにするように外周に積むようにしましたが、まだまだ大量に出てきそうです。







第11回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 3）

日時 2020年2月1日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 北川英樹、藤間熙子、長澤正広

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 5名

生田緑地の最初の伐採更新は萌芽更新地区で、1998年末に国庫補助事業によって伐採が行われました。

2番目は皆伐更新地区で、2010年末に川崎市の事業として伐採が行われました。

里山倶楽部では、2009年から萌芽更新地区の伐採更新の再試行に、2011年から皆伐更新地区の更新管理に取り組んできました。

芝生広場上の雑木林の伐採更新については、里山倶楽部として発意したものであることから、林床に密生するアズマネザサ刈りも里山倶楽部として市民活動によって行っています。

1/11(土)から活動を始めて、今回が3回目となります。天気は良かったのですが、参加者は5名でした。

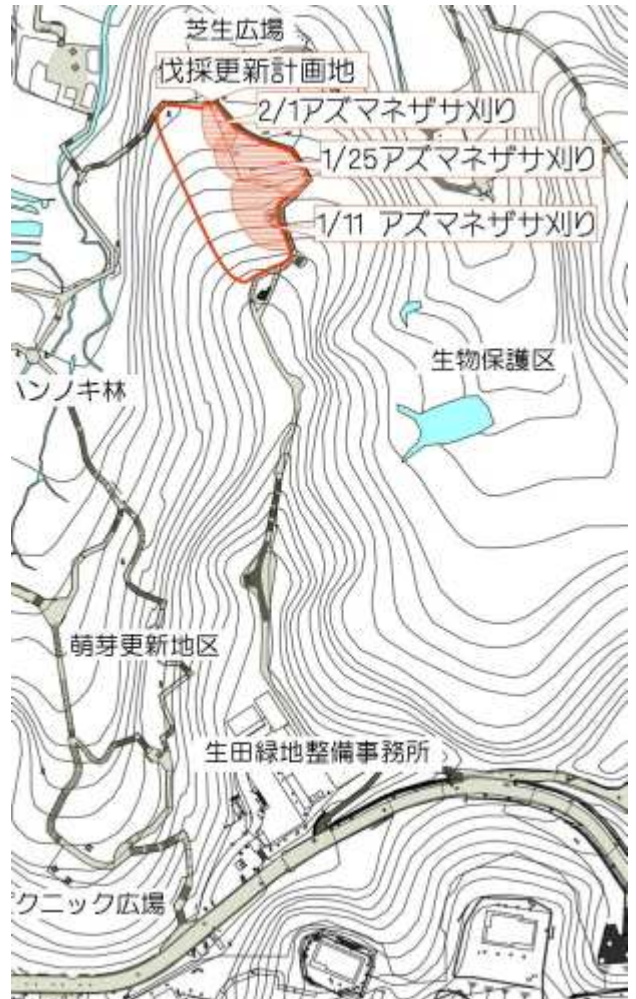
里山倶楽部は、普通の市民が生田緑地の植生管理を楽しむように計画していますが、毎週の事となると、参加できる人は限られてきます。

高さ4m超のアズマネザサのヤブを刈る活動ですので、里山倶楽部Aチームの活動としてはハードだと思い、声はかけていません。

この日は特に、アズマネザサの茂みの上に倒れて、放置されていた倒木の片付けも行いましたが、絡み合った枝の上に積もっていた枯葉や塵が目に入ることもありました。

休憩時に見上げると高木層は高く、20mを超えているように見え、伐倒の手順は注意を要しそうです。

低木層は1月の活動では30種以上の落葉樹が見つかりました。



この日の活動範囲では、カヤの実生1本のほか、多数のモミジの実生がありました。新しいドングリが見つからなかったのが気になります。



南側には、ドウダンツツジを透かして芝生広場が見えます。



放置されて 1 年以上になる倒木はボロボロでした。



活動を終わってから集合写真を撮りました。



帰り道、コウヤボウキの実が陽光を受けて輝いていました。



第12回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 4日目）

日時 2020年2月8日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 東 陽一、岩淵裕輝、加登勇司、北川英樹

(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生 5名

芝生広場上雑木林のアズマネザサ刈りも4日目となりました。
参加者は5人で、倒木が転がっている面倒な所でしたが、作業は捗りました。





中間の休憩をとっていたら、ルリビタキが飛んで来て、暫く、遊んでいました。
私たちなど眼中に無いようで、私たちに向かって真っ直ぐに飛んで来て、2mほどの所で気がついて、翼をばたつかせて急ブレーキをかけて戻ることもありました。
飽きない光景でしたが付き合っはられないので、ルリビタキの遊んでいた場所を抜けて、活動を再開しました。





活動を終えて、集合写真を撮りました。
アズマネザサのベッドが心地よかったようです。



第13回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 5日目）

日時 2020年2月15日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 岩淵裕輝、宇治原敬志、藤間i子、長澤正弘、吉澤正一
(かわさき自然調査団市民部会事務局) 岩田臣生 6名

芝生広場上雑木林のアズマネザサ刈りも5日目となりました。この日の参加者は6人でしたが、里山ボランティアは初めてだという20歳代の若者の参加がありました。活動は対象区域の中でも、活性度の高いコナラが残り、良好な樹林の状態にあると思われた西南の地区です。実際の伐採更新区域を考えるために、谷戸側の境界となりそうな部分のアズマネザサ刈りを2m程の幅で進めてみると現況地形図と実際の地形の違いが分かってきます。谷壁斜面は急勾配で、常緑樹林化している部分の林床では、アズマネザサさえも消えています。里モ二中大型哺乳類調査の定点カメラ設置場所を探して獣道を辿って見つけた根返りしたコナラ大木の全景を上から見下ろして、改めて、大きな木だったことを知るようになりました。当該雑木林の林床は、長期間アズマネザサが密生していた斜面だから宝物と言えるようなものは何も無いと思われていましたが、消えてしまうことなく生き残っている植物があることも分かりました。殆んど枯木状態の植栽サクラや、途中で折れて危険な状態にあるコナラなどは、早期に伐倒した方がいいと思いますが、今年の春~夏期はゆっくりと、若木、幼木、草本などを観察して楽しみ、秋以降、順次、伐採を始めれば良いと思います。里山倶楽部は、生田緑地の自然を保全したいと考えて、行動する市民の活動です。草木が展葉し、花を咲かせる季節には、それを楽しみながらの活動の仕方があると思います。





この日の宮前区から見る夕日は、富士山の上に沈みました。



第14回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 6日目）

日時 2020年2月29日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 東 陽一、加登勇司、北川英樹、富永直子、長澤正弘、山本栄行
（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美

8名

昨年末に計画して、1月11日から始めた芝生広場上雑木林の伐採更新のためのアズマネザサ刈りは6日目となり、園路沿いの僅かを残して、ほぼ全域を刈り終わりました。

活動の度に、何本も転がっている倒木、5m程の高さで折れている樹木、多数のアオキなどが気になったものの、生田緑地にはあるべきタマノカンアオイなどの草本が元気だったり、低木層には多数のヤマツツジが確認されたり、高木層は20m程の高さがあると分かったり、元気なコナラが美しい木肌を見せてくれたり、なかなか魅力的な雑木林だったことが分かりました。

この日の活動では、春の訪れを知らせるように、アカシデの梢はほんのりと紅く染まり、シュンランの蕾が膨らみ、咲き始めてもいました。エナガが単独で、様子を見に来ていました。

2ヶ月の間に6回の活動を経験してきた者には、季節の変化を実感できる楽しい活動でした。

また、里山倶楽部としては定例外の活動で、常連の皆さんを頼りに始めた活動でしたが、前日も、今回も、初めての参加者があったことは、事務局としては、非常に嬉しい出来事でした。

そして、残りのアズマネザサ刈りや除伐対象の樹木の伐採などを目的に、来週も活動しようという話が参加者から出されました。







咲き始めたばかりのシュンランは、活動してくれた人へのご褒美ですから皆で観察しました。



集合写真を撮りました。



園路（自然探勝路）には、丁度、ヒメカンスゲが咲いていました。



第15回里山倶楽部B（新たな伐採更新のためのアズマネザサ刈り 7日目）

日時 2020年3月7日(土) 10:00~13:00

場所 生田緑地 芝生広場上雑木林 A09-8

参加者 東陽一、北川英樹、工藤思由、藤間淑子、吉澤正一、
山本栄行、山本優馬（5歳）、山本環希（2歳）

（かわさき自然調査団市民部会事務局）岩田臣生、岩田芳美 10名

昨年末、生田緑地芝生広場上雑木林において、萌芽更新地区、皆伐更新地区に次ぐ、3回目の伐採更新を計画し、生田緑地自然環境保全管理会議の承認を得て、1/11(土)にアズマネザサ刈りに着手しました。

自然会議においては、先ず植生管理計画を提出しろという意見もありましたが、落葉広葉樹林の若返りのための伐採更新を目的とするということ、活動主体が特定非営利活動法人かわさき自然調査団であるということとで充分だと考えています。

伐採更新は、現地が有する資源の活性化を図る活動であり、植物同士の生存競争への立ち入り方については、当該地区にあるべき植物が有り続けられるように手を貸す程度のことだと思います。

現地の資源に関係なく、恣意的に、人為によって、樹林の構成を計画して創ることは、生物多様性の観点からは必ずしも適切だとは思えません。

当該地区は10年以上、下草刈りなどの管理を行っていませんでしたので、地区内の微妙な地形、生育している植物、棲息している動物などについての情報が皆無でした。

そこで、里山倶楽部の活動としてアズマネザサ刈りを行いながら、現地の状態を観察し、活動7日目にアズマネザサ刈りを終え、活動途中で各所に積んでいた材を園路近くに移動して積み直し、斜面に転がっていた倒木の片付けにも手を着けました。

今後、秋までに、高木層～低木層の樹種と活力度、草本層の植物などを調べて、伐採手順などを検討し、今秋から高木層の伐採にかかりたいと考えています。

普通に考えれば、皆伐更新地区で行ったように、短期間に全てを伐採して、埋土種子からの発芽を促して、新たに雑木林を育てるべきなのかも知れません。

しかし、当該地区内には失いたくない植物があることから、皆伐更新によるインパクトの影響が心配されました。

そこで、可能な限りインパクトの小さい伐採更新を目指したいと考えています。

そのために、伐採の手順などを、植物の活動が活発な春～夏期の状態を観察し、秋までに、現地で、計画したいと考えています。

残っていたアズマネザサは園路沿いに僅かだけでしたので、これは直ぐに終わりました。





刈ったアズマネザサや落枝などを積むための支柱は太めのアズマネザサを使いました。



転がっていた大きな倒木の片付けにも取り掛かりました。







上空をトビが飛翔しました。
アズマネザサに埋もれていたベンチを露わにして、活動を終わることにしました。



休憩しました。
ツノハシバミが数株あって、雄花序を垂らしていることを確認しました。



集合写真を撮りました。



ヤマツツジの新葉が枯葉色の景色に命を吹き込んでいました。



帰り道、ウグイスカグラが咲き、キブシも黄色を濃くしてきました。

